
ソセゴンボールZ

生時(レジェンド)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソセゴンボールZ

【Nコード】

N2367I

【作者名】

レジエント
生時

【あらすじ】

「ソセゴンボール」の続編です。

鳥山先生の「ドラゴンボール」のパロディーみたいなもので、「ドラゴンボール」とは一切関係ありません。

まえがき&プロローグ

まえがき

前作「ソセゴンボール」が以外にも多くの方に読んでもらえたので、「ソセゴンボールZ」を書くことにしました。

前作を読んでない方へ

タイトルのソセゴンとは僕が飲んでいる痛み止めから付けました。ソセゴンボールとは、「ドラゴンボール」のパロディーのようなもので、鳥山先生の「ドラゴンボール」とは一切関係ありません。

また、登場するキャラは僕や一部を除いて、いろんなアニメのキャラをモデルにしています。

ソセゴンボールの登場キャラ

生時・・・作者であり、主人公でもある。クローン病という難病を抱えた30のオジサン。主人公であるため、ドラゴンボールだと孫悟空のような存在であるが、孫悟空とは違い、かなり弱い。

如月美奈子・・・この物語のヒロインである。

ブルマのような存在であるが、発明は出来ない。だが、四次元袋という不思議な袋を手に入れ、不思議な道具を出す事が出来る。

また、キューティーヴィーナスという愛の戦士(?)でもある。

モデルは「セーラームーン」の愛野美奈子、又は「新キューティーハニー」の如月ハニーである。

ウーノスケ・・・ウローンのような存在であるが、変身は出来ない。だが、着ぐるみを着て変装？が出来る。

人間と妖怪の間に生まれたため捨てられた半妖怪である。

通称は「ウーちゃん」で年齢は、5歳児に見えるが、1000歳を超えている。

また、かなりの女好きである。普段は「オラ」と、言っているが、ナンパをする時など「僕」となり、丁寧語になる。
モデルは「クレヨンしんちゃん」のしんのすけである。

ノムチャ・・・ヤムチャのような存在であるが、あまり強くない。
サングラスをかけているときは、カッコいいが外すと目が「3」のような目をしている。

モデルは「ドラえもん」の野比のび太である。

プーえもん・・・プーアルのような存在で、天上界からノムチャを立派な盗賊にするためにやってきた狸のような猫妖怪である。

通称は「プー」で年齢は1293歳で、ウーノスケとは幼馴染である。

四次元袋は元々彼のものであるが、美奈子に取られたままである。
モデルは「ドラえもん」のドラえもんである。

ハゲ仙人・・・別名、悟天老師！

亀仙人のような存在だが、スケベでなく、欲がないまさに仙人である。

モデルは特になし。武道の達人である。

ミスター・サタロウ・・・牛魔王のような存在で、フランスパン山に住む格闘技の世界チャンピオンである。
師匠はハゲ仙人で娘に生ビードルがいる。

モデルはミスター・サタン（声優つながり）である。

生ビードル・・・チチのような存在であるが、婚約者は生時ではな

くウーノスケである。

モデルはビーデルであるが、彼女よりもセクシーギャルである。名前はビーデルからビールを思いつき、生ビーデルとなった。

奇体組・・・ピラフ一味のような存在で、ピラフが礼クン大魔王、シユウが豪で、マイが命である。

モデルは「ハイスクール！奇面組」からで、礼が一堂零で、豪が冷越豪で、命が雲童命（腕組のリーダー雲童塊の妹）である。（声優繋がり）

ソセゴン・・・神龍のような存在であるが、龍ではなく、セクシーギャルで、金を払わないと願いを叶えてくれない。

最初はドラえもんみたいなキャラを考えていたが、プーえもんで出してしまうため、モデルは特になく、セクシーギャルとなった。

プロローグ

伝説である。

7つの玉を集めて1万円払うと、どんな願いも叶うとか叶わないとか……

という不思議なボールがあると古より云い伝えられてきた。

その名はソセゴンボールという。

このボールにより、生時は、おかしな……いや、素敵な仲間と出会えた。

愛の戦士（？）美奈子、ナンパな妖怪ウーノスケ、砂漠の肺がん……じゃないや、ハイエナノムチャとプーえもんたちだ。

そして、生時たちは、世界征服を企む奇体組という悪の組織を倒し、美奈子と生時が結ばれる……という夢を見ていた（前作はここまで）

そのため、夢オチか？と思われるが、生時は作者でもあるため、続

編を書く決意をし、再びソセゴンボールの世界に入り込んでいった。
戻ってからの生時は、ハゲ仙人の弟子となり、そこでまた、新たな仲間、志村栗八と出会う。

彼はかつて、よろずや「銅ちゃん」というところで、修行をしていたが、その時の師匠が、まるで、ダメな、おとこ、だったため、よろずやを去り、ハゲ仙人の弟子となったのだ。

その後、生時は天下第一ブドウ会に出場し、目玉と体だけの妖怪、目玉の天津や、地球征服を企む悪の大魔王ピコちゃん大魔王と格闘ゲームで激しい戦いを展開し、生時は見事に優勝し、それと同時にウーノスケと生ビードルが結婚をし、世界は平和となった。
めでたし、めでたし……て、始まってもしないのに終わるところでした……

それから五日後……

その平和な地球にかつてない危機が訪れようとしていた。

第1章 新たな伝説の始まり

ハゲハウス……

この日は生時がブドウ会で優勝した記念とウーノスケと生ビーデルの結婚祝いが行われていた。

生時

「いやゝ、遅くなりました。現実あっちの世界に戻って、バイトしてたもんで……あれ？美奈子さんと、ハゲ先生と栗八しかいないじゃない」

美奈子

「ノムチャとプーは知り合いのリサイタルがあるから来れないって、メールがあつたわ。地獄のリサイタル助けてゝ！と書いてあつたけど……あと、目玉の天さんは茶碗風呂に入っているから遅れるそうよ」

その時！

ウーノスケ夫婦がクリキントンという雲に乗ってやってきた。そして一同は驚いた！

彼らが子供を連れてきたからだ！

栗八

「おかしいだろ！結婚して5日しか経っていないのに、何で子供が……しかも、どう見ても4歳位の子を……」

ウーちゃん

「オラたちの子じゃないぞ！山で捨てられていたから、うちで飼うことにしたんだぞ！」

栗八

「犬や猫じゃないんだよ！ちゃんと警察に連絡したほうが……」

生時

「まあまあ、で、この子の名は？」

ウーちゃん

「白ご飯、略してシロだぞ！」

シロ

「どうも、シロです。趣味は糖分摂取、夢は糖分王になること」

栗

「に、似ている……僕の前の師匠、坂田銅時に……」

シロ

「あつ、そいつが俺のホントのお父さん」

その時だった！

ものすごいスピードで海を泳いでハゲハウスに向かってくる者がいた。

シロ

「チッ、厄介なやつが来たぜ！」

謎の男

「ハアハア……さが、探したぞ！白ご飯、いやシロ夜叉」

シロ

「ズラ……」

ズラ

「ズラじゃない……俺の名はカツラディッツだ！」

シロ

「なげくんだよ！お前なんかズラで十分だ！」

栗八

「あんたら、一体何者なんだ！」

ズラ

「俺も白ご飯もそして、その親父もこの星の人間じゃない！生まれは惑星トウバク！20年前にペリー星人というやつらが攻めてきてやつらとの戦いが始まった。だが3年前に、まだ1歳だったお前が敵陣に乗り込み、我らの勝利は見えかと思った。だが、我らの王トクガは敗北を認め、わが星はペリー星人たちのものとなった。そして、お前ら親子は俺の前から姿を消した」

シロ

「よく地球こゝが分かったな」

ズラ

「俺も自分の星を捨て、宇宙に出た。そして強力な異星人と出会った。そういうことだ！」

シロ

「何がそういう事なんだ！オメが宇宙に出て、強力な異星人と出会ったのと、俺が地球にいる事と、どう関係があるんだ？」

ズラ

「俺は、その男とともに、軟弱化したわが母星を滅ぼす！どうだ！シロ！テロリストの血が騒がんか？」

シロ

「どうでもいいよ。その前に俺の質問に答えろよ」

ズラ

「そうか！仲間になりたいか……だが、一つ条件がある」

シロ

「勝手に話を進めないでくれる。滅びしたけりゃ好きにやれよ！」

ズラ

「な〜に、簡単な事だ！明日までに子犬、子猫を100匹用意するだけさ……俺はあの肉球を触るのが大好きでね。それまで、栗八くんを人質として預かるから」

栗

「何で僕！しかも何で僕の名前知っているんですか？初対面ですよ？」

ズラ

「じゃあ、いい返事を期待しているぜ……あの〜、スイマセンが、ボート貸してください！人質つれては泳げないんで」

ハゲ仙人は弟子の身を考え、ボートを貸した。

それから1時間後……

シロは誰かに電話をしていた。

シロ

「じゃあ、頼んだぜ！」

生時

「ま、まさか、かぐちゃんみたいな子が来るんじゃない?」

しばらくして、現れたのは……

ピコ

「わしゃの地球^{ちたま}征服の邪魔をするのは誰だがや?」

現れたのは、からちゃんみたいな子ではなく、ピコちゃんだった。

生時

「シロさん、ピコちゃんを知っているんですか?」

シロ

「ああ、この星に来る時、同じシャトルの乗客だった。」

ピコ

「そいつを倒せば、地球^{ちたま}はわしゃのものになるがや」

生時

「よし!目玉の天さんやノムチャたちにも来てもらうようにメールを入れておこう。で、どうやって行く?」

美奈子

「じゃじゃん!四次元袋!ここから……どこでもア!これで行けるわ。でも、めんどくさいから、私は行かない」

ハゲ

「ワシも年じゃ……足手まといになるといかんから、ワシも残る」

ウーちゃん

「オラたちも残るぞ！」

シロ

「いいか！やつは馬鹿だが、強さは本物だ！気合入れて行くぞ！」

果たして地球の運命は……？

て、地球関係ないがや！

第1章 新たな伝説の始まり（後書き）

新たな登場人物

目玉の天津・・・DBだと天津飯のような存在で、体の上に目玉がある妖怪。

モデルは「ゲゲゲの鬼太郎」の目玉の親父。
身長もモデルである目玉親父と同じくらい。

第2章 ズラはポジションを変えた

栗八を取り戻すため、戦士たちは「どこでも ア」でズラのところに向かった。

とある場所……

ズラ

「栗八くん、君からもシロを説得してくれないか！」

栗

「ズラさん、やはりテロ行為は良くないです！」

ピコ

「いたがや〜」

ズラ

「ん？……貴様ら、どうしてここが？」

シロ

「いや、その前にお前のほうこそ、俺が地球にいる事をどうやって知ったか知りたいんだけど……まあいい……とりあえず、栗八を返してもらうぜ」

ズラ

「約束の子犬、子猫100匹はどうした？」

シロ

「そんなのテメーで集めろ！」

ズラ

「そうか……シロ！お前を仲間にするのは止めだ！」

シロ

「そりゃ〜どうも」

ズラ

「覚悟はいいか？」

シロ

「ズラ……」

ズラ

「ズラじゃない！ベズーラだ！」

シロ

「お〜い、なにラディツ　のような存在的キャラから、ベジ　タのようなキャラに変えようとしてんだ」

ズラ

「ふっ、ベジ　タのポジションをやれるのは俺くらいだと、今気づいたのだ。それよりいいものを見せてやろう」

そついうとズラは、懐から小さなビンを取り出した。

ズラ

「このビンの中に3粒のタネが入っている」

ズラはタネを土に植えて、水をかけた。

すると、3匹の不気味な人間でもなく、妖怪でもない生物が土から出てきた。

ズラ

「行け！栽培人間ベム、ベラ、ベロ」
とその時……

ピー、ピー、ピー……

と生時の携帯が鳴った。

ズラ

「おい、戦いの最中だぞ！携帯の電源を切るかマナーモードにしろよ」

生時

「スイマセン……プーえもんからのメールか……」

生時はその内容を読んで、驚いた。

生時

「ノムチャが……死んだ！」

一同

「なに！」

生時

「なんでも、某ガキ大将の歌を聞いていたら死んだらしい……しかも、そのリサイタルのお客のほとんどが死亡し、生き延びた者も重症でプーえもんも瀕死の状態で、メールをしてきたようだ」

なんとノムチャが死んだ。

だが、これが戦い！

果たして、彼らはテロ行為を行おうとしているベズーラを倒せるの
だろうか……

第3章 戦士の戦死！

まさかのノムチャの死……

だが、悲劇は続いた。

生時の携帯に、今度は美奈子からメールが届いたのだ。
そして、再び、生時は驚いた。

生時

「目玉の天さんが……死んだ！」

一同

「なに！」

生時

「息子さんから電話があり、茶碗風呂で溺死したとのこと」

シロ

「マ、マジかよ……ん？ピコ？どうした？」

シロはピコちゃんのそばに行き、そして……

シロ

「死んでる……」

一同

「なに！」

彼は栽培人間の恐ろしい姿を見て、ショック死していたのだ。

シロ

「ピコのおじさん！」

そして、またまた生時に美奈子からのメールが……

生時

「こ、今度は……チャオゾウが死んだ」

一同

「何！……て、チャオゾウで誰だ！」

生時

「さあ……」

栗

「アンタ、一応作者でしょ！」

ズラ

「そ、そんな……チャオゾウが死んだだと……」

シロ

「あん？ズラ知っているのか？」

ズラ

「ああ、この星に来る前に、惑星イーガで仲良くなった、どんぐり眼に赤いホッペのかわいい宇宙忍者ハットリチャオゾウ君だ！」

栗

「何で、アンタの知り合いが死んだ事を美奈子さんは知っているんだ。大体、それを僕らに教えてどうするんだ」

生時

「死因は、イーガに攻め込んできたコーガ星人、ハツパを倒すために自爆したとのこと……て、なんで美奈子さんはそんなこと知ってるんだ!？」

ズラ

「これが戦いなんだな……」

栗

「僕らはまだ戦ってないですけど……」

ズラ

「そうだったな!そろそろ始めるか……よし、行け栽培人間!ん?」

栽培人間はピクリとも動かない。

ズラ

「どうした?何故動かん!」

彼は懷から取扱書を出し、それを読んで驚いた。

ズラ

「何てことだ!動かすには乾電池が必要だったとは……しかも一体につき、単三乾電池4本もいるのか」

シロ

「お前、馬鹿だろ!そんな奴がベジタのような存在になれるわけね」

ズラは慌てて、電池を買いに行こうとした。

だが、道路に飛び出し、車と激突！

運転手

「や、やべー飲酒運転がばれちまう」

男はそのまま逃走した。

飲酒運転は絶対にしないでください！

ズラ

「うつ、うつ……鼻血！この俺が鼻血を流すなんて……不潔！あたしったら不潔だわ！」

シロ

「お前はブル 将軍か！しかも車にもろはねられて、鼻血で済んだのかよ」

ズラ

「貴様らゝ、許さんぞ！」

シロ

「俺たち何もやっていないから、お宅が勝手に車にはねられただけだから……」

ズラ

「いいか！俺が出会った異星人とは、あのエリーザだ」

シロ

「な……なに！エリーザだと……お前そんな危ない奴とつるんできたのか！」

ズラ

「ああ、そしてエリーザは今、あのマジック星に行き、ソセゴンボールを集めているところだ！」

生時

「なに！？ソセゴンボールはこの星のモノじゃ……」

シロ

「ああ、あれか……あれは俺の親父が作ったパチモンだ！本物はマジック星にある」

生時

「そうだったのか……」

ズラ

「ソセゴンで我が母星を滅びした後、シロ！次はお前を裏切り者として粛清する」

ズラは携帯を出し、あるところに電話を掛けた。

ズラ

「もしもし、宇宙タクシーさんですか？至急一台タクシーをお願いします」

10分後……

運転手

「どちらまで？」

ズラ

「惑星マジックまで頼む」

運転手

「へい！」

シロ

「どうやら、かつての同士だけでなく、エリーザとも戦わねばならんようだ」

運転手

「お客さん、鼻血出ていますよ」

ズラ

「フッ……凄い戦いだっただ……いや、これからもっと凄い戦いが始まる」

運転手

「そうですか」

このベズーラ戦で、ノムチャ、目玉の天津、ピコちゃん大魔王、そして、チャオゾウの4人の戦士たちが散った……
果たして、謎の異星人、エリーザとは何者なのか？

第4章 シロの意外な事実！えっ！？それホントなのテストに出るかな？

ベズーラとの戦いで、4人の戦士が散ってしまった……

シロ

「俺はマジック星に行くぜ！ズラのテロ計画を阻止したいし、死んだやつらを蘇らせたい」

生時

「でもソセゴンボールならこの星にもあるじゃないですか？」

シロ

「さっき言ったが、あれは親父が作ったパチモンで、失敗作だ！お金を払わねば、願いが叶わないし、人を蘇らすことなんて出来ねえ」

生時

「……」

シロ

「100年前……親父はマジック星で科学の勉強をし、その後この星に来て、ソセゴンボールを作ったのだが、ソセゴンをピチピチギヤルにしたのが失敗の原因らしい……」

栗

「100年前って、あの方、100歳を超えていたんですか！？」

シロ

「ああ、その後しばらく、地球が気に入り、暮らしていたらしいが、20年前に戦争が勃発！親父は母星を救うためトウバク星に戻

った。そして、4年前に俺を作った……そう、俺は実はアンドロイドだ！ペリー星人を倒すために親父が作った人造人間なんだ」

栗

「そ、そうだったんですか……」

シロ

「だが、トウバクは敗北し、3年前に親父は俺を連れて、この星に戻ってきた。親父は地球でよろずやを営みはじめたが、酒を飲み、ギャンブルにはまり、まるで、だめな、おとこ、になってしまった……そんな親父の姿を俺は見なくなかったため、家を出て、山で迷っていた時にウーノスケ夫婦に助けられたんだ」

栗

「そうだったんですか……僕はその後、銅さんのところに弟子入りしたんですが、確かにその時はダメ人間でした」

シロ

「親父は、自分の星を守れなかったことを、忘れたかったんだろう……さて、マジック星に行くとするか……」

栗

「ぼ、僕も行きますよ！美奈子さんの四次元袋から、どこでもアを借りていけばすぐです」

シロ

「四次元袋もその中の道具も、親父が30年前に某漫画を読んで作ったものだ。金に困って、天上界に売ったらしいが……そして、親父の作ったどこもドアは某漫画とまったく同じ構造だ。だから、マジック星までは行けない」

栗

「そうだったんですか！」

生時

「某漫画とまったく同じ構造なら、ドアに内蔵されている宇宙地図の範囲で、また10光年以内の距離しか移動できないという制限があるからな。10光年を超えた距離のある目的地を指定して扉を開くと、どこでもアとしての機能は働かず、ただのドアとなるんだよ。まあ、某漫画では宇宙の果てまで行ったことあるが……」

栗

「アンタ、詳しいね」

生時

「すごいだろう！」

シロ

「ズラのように、宇宙タクシーを使おう」

そう言って、シロは宇宙タクシー会社に電話をした。

10分後……

シロ

「マジック星まで頼むぜ」

運転手

「へい！」

栗

「ところで、お金持っているんですか？」

シロ

「……生時くん、頼むね」

生時

「無理、無理……今月、バイトのシフトあまり入れなかったし……」

運転手

「お客さん！」

シロ

「いや、皿洗いでも何でもしますから……」

栗

「皿洗いって、無銭飲食したんじゃないんですよ」

その頃、ズラは……

ズラ

「そこのお兄さん、宇宙にいくなら、ぜひ！宇宙タクシーをご利用してください！あつ、お兄さん！待って……」

ズラも金を持っていないため、某惑星で降ろされ、タクシー会社の呼び込みをさせられていた。

ズラ

「そのカップルさん！二人で、今から宇宙旅行したくありませんか？あつ、ちょっと待って……」

再び生時たちは……

美奈子を呼び出して、お金を借りた。

美奈子は楽しそうという事で、生時、シロ、栗八と共にマジック星に行く事にし、ようやく出発する事が出来たのだ。

果たして呼び込みをしているズラは無事にマジック星にたどり着けるのだろうか？

第5章 サブタイトル

地球を出発して一週間……

一行はついにマジック星へたどり着いた。

栗

「やっと着きましたね」

シロ

「どうでもいいけど、サブタイトルにサブタイトルってなんだよ。意味わかんねーよ」

生時

「しょうがないですよ。作者がアホですから」

栗

「いや、作者アンタだから」

美奈子

「そんなことより、リーダーで確認するわよ」

美奈子は、ソセゴンリーダーで、ソセゴンボールを確認した。

美奈子

「北の方角で、三つの玉が移動している。おそらく、その愛しのエリーって人ね」

シロ

「なんだ愛しのエリーって、お前エリーザを愛しているのか？あた

ったこともないのに愛しているのか？て、言うか、何でお前はチャオゾウという奴を知っているんだ？しかも、それを俺たちに教えてどうするんだ？」

美奈子

「そんなこと女の口から言えないわ」

シロ

「そうですか……」

美奈子

「あつ、さらに北のほうに3つの玉が……おそらく、エリーちゃん
は、すでに6つ集めたようね」

シロ

「マジかよ！よし、北のほうへ行くぞ！」

美奈子

「キャンピン カプセル」

シロ

「行くなって言ってるのに、なに休もうとしてんだ！」

美奈子

「疲れたから、ここで待っている」

シロ

「お前、何しに來たの？」

美奈子

「あんたたちの変わりに、お金払ってあげるため」

シロ

「すみません！生意気言って！」

生時

「じゃあ、僕も」

栗

「アンタは来いよ！」

生時

「栗ハクン、僕は主人公だよ！主人公は、皆がピンチになったら現れるものさ」

栗ハ

「アンタ、今まで活躍したことね〜じゃん！」

シロ

「ほっとけよ栗ハ……どうせ病人や女は足手まといだし……だがレ―ダーは借りていくぜ！」

美奈子

「いいけど、もう電池ないわよ」

シロ

「おい、予備の電池ないのか？」

美奈子

「ないわよ」

シロ

「ないわよ……じゃねーよ！この馬鹿女！」

美奈子

「誰が、タクシー代払ったのかしら？」

シロ

「スイマセン！美奈子さん！」

栗

「あんたやっぱり、前の師匠にそっくりだ」

シロ

「とにかく北のほうに行くぞ！」

栗

「は、はい」

生時

「（よし！行っただな！ゲヘ、ゲヘ……俺は作者、美奈子をどうしようと、俺の自由……）」

美奈子

「生時くん、変なことしたら、熱線銃で殺すから！」

生時

「怖いよ、この人ほんとに愛の戦士！？」

結局、作者であっても、美奈子を自由にすることは出来なかった。

一時間後……

北のとある場所……

シロ

「クソ、北のどこまで行けばいいんだよ！そつだ！今なら気を感じれる気がする」

栗

「そんなこと出来るんですか？」

シロ

「……やっぱ、出来ねー！クソ！誰か本物の孫 空を連れてきてくれ！」

とその時、二人の前をオバ のQ太郎みたいな生き物がドツチボールくらいの玉を両脇に一つずつ、頭に一つ乗せて横切っていた。

シロ

「栗八くん、なんか、変な生き物が通っていたけど、もしかして今の漫画に出てくるオバケみたいなのが、エリーザかな？名前しか聞いたことないんで俺……」

栗

「え、違うでしょう……ここの星の人じゃないんですか？」

シロ

「でも、ソセゴンボールみたいな持っていたよ」

栗

「あれ？本物はあんなに大きい玉なんですか？」

一瞬黙り込み、

シロ、栗

「あれがエリーザかよ！」

と二人同時に叫んだ。

シロ

「あれが、凶悪と噂されているエリーザ！まったくどこが凶悪なんだ？噂はあてにならないな～よし、いくぜ！ハ！」

栗

「へい、親分」

シロ

「エリーザ！覚悟！」

ついにエリーザとの戦いが始まった。
その頃生時たちは……

美奈子

「遅いわね～、ねえ、生時君もボール探し手伝ってきてあげて、お願い」

生時

「分かりました。美奈子さんの頼みなら行ってきます」

美奈子

「いつてらしゃい。あなただけは帰ってこなくていいからね」

生時

「ひ、ひどい……」

その頃シロたちは……

シロ

「栗八、ここは俺に任せて、お前はボールを集めて来い。たぶんこの先に3つあるはずだ」

栗

「分かりました」

だが、その時！

ズラ

「貴様ら！エリーザになんて事を！」

ようやくズラがマジック星にたどり着いたのだ。

果たして、シロたちは無事ボールを集める事が出来るのだろうか？

第6章 今日の昼はうどんだったの巻

ついにエリーザとの戦いが始まり、シロはエリーザをボコボコにしていた。

だがその時、ベズーラが現れたのであった。

ズラ

「貴様ら、エリーザが一体何をしたというんだ！」

栗

「そういえば、エリーザって、ただボールを運んでいただけですね」

シロ

「……エリーザって名前だから、フーザのようなキャラじゃないの？」

ズラ

「ふざけるな！名前が似ているからって……エリーザはどう考えたってデデのようなキャラに決まっているだろうが！」

その時！

生時

「あつ、いた！」

生時もついに戦いの場に現れた。

だがその時、どこからかレーザー光線が……
そして、レーザー光線はエリーザの体を貫いた。

ズラ

「エリーザ！」

シロ

「だ、誰だ！出て来い！」

ズラ

「エリーザ、大丈夫か？おい！エリーザ……エリーザ！」
エリーザは死んだ。

一体、何者がレーザー光線を放ったのか？

シロ

「おい、あの崖の上を見ろ！」

崖の上には、レーザーガンを持った謎の男がいた。
謎の男

「まさか、こんなところに、トウバク星人がいるとは……」

男にはシッポと、頭には一本の角が、そして、赤い瞳をしていた。

シロ

「お、お前は、ペリー星人……」

ペリー星人

「おや、その顔はシロ夜叉！まさか、こんなところに逃げていたとはな」

ズラ

「貴様、よくもエリーザを……許さん」

ペリー星人

「いい事を教えてやる。貴様らの惑星トウバクは、去年、巨大な隕石と衝突し、消滅した。当然、お前らの仲間のトウバク星人も、そして、ペリー星人も滅んだ」

ズラ

「貴様は何故生きている」

ペリー星人

「たまたま、家族で宇宙旅行していてね、あつ、申し送れたが、俺の名はペリーザ!」

シロ

「ペリーザだと!?じゃあ、コイツがフーザのようなキャラなのか?」

ズラ

「そんなこと、どうでもいい……エリーザの仇!」

ペリーザ

「うるさいよ」

そう言つて、ズラに向けて、レーザーガンを撃った。
ズキューンという音が鳴り響き、ズラは倒れた。

シロ

「ズラ!」

ズラ

「う、うう……シロ、いやシロ夜叉……エリーザとトウバク星人の

仇を……」

シロ

「ズラ、しっかりしろ！」

ズラ

「シロ夜叉……お前なら、あの伝説の戦士、^{スーパー}超ど変人になれるさ」

栗

「何で超ど変人？そこは超トウバク人とかじゃないんですか」

シロ

「超ど変人……皿と銭湯を好む伝説の戦士……」

栗

「それ、皿と銭湯が好きなら、誰でもなれるじゃん」

ズラ

「た、頼んだ……ぞ……」

シロ

「おい、ズラ！ズラ〜！」

ベズーラは死んだ。

ペリーザは崖から下り、ゆっくりとシロたちのほうへ進んできた。

シロ

「お前ら、逃げろ！」

栗

「で、でも……」

シロ

「邪魔だ！皆揃って死にたいのか！」

ペリーザ

「ククッ、誰も逃がさないよ」

ペリーザは立ち止まり、銃口を栗八に向けそして……

ズキューン！

と音が鳴り響き、レーザー光線は栗八の体を貫き栗八は死んだ。

シロ

「栗八！」

その時、生時に異変が……

生時

「うつ、うつ……」

シロ

「ま、まさか、栗八が殺され、その怒りで最強の超ど変人に……」

生時

「うお、怖いよ、助けて」

なんと、恐怖のあまり、生時は発狂した。
しかも、30にもなって、チビってしまった……

シロ

「おい、お前一応主人公なんだろう！」

ペリーザ

「ククッ……シロ夜叉は最後にして、あの情けないオッサンを殺すか！」

その時、猿のような生き物が……

実はこの猿のような生き物が、マジック星人なのだ。

彼は野良仕事を終え、帰宅途中に偶然通りかかったのだ。

マジック星人

「な、何てことだ！栗八が……」

シロ

「アンタ誰？」

マジック星人

「ああ、ズラ、それにエリーザまでも……」

シロ

「だからアンタ誰？何でこいつらの事知っているの？」

マジック星人

「ゆ、許さんぞ！うお」

マジック星人の体毛が黄金に……

さらにもう一人、年を取ったマジック星人が通りかかった。

マジック星人B

「おお、あれは伝説の超マジック星人！これで、ペリーザも終わりじゃあ」

超マジック星人

「俺は激しい怒りによって目覚めきゃ、あっ……」

シロ

「おい、カッコいいシーンなのにセリフをかんだぞ！」

そして、

ズキューン！

という音が鳴り響き、超マジック星人の体をレーザー光線が貫き、超マジック星人は死んだ。

シロ

「おい、あつさりと殺されたぞ！アイツ何しにきたの？」

マジック星人B

「な、何てことだ……エテキチ・モンキー・ウツキーマウンテンゴリラジュニアが殺された！」

シロ

「なげよ！しかも何て名前だ！」

マジック星人B

「許さんぞ！」

そついうと、年老いたマジック星人も超マジック星人へと覚醒した。

シロ

「超マジック星人何人いるんだ？しかも、どうせ弱いんだろう」

そして、

ズキューン！

という音が鳴り響き、超マジック星人Bの体をレーザー光線が貫いた。

超マジック星人B

「若いの、わしらはやれる事を行った……後は任せただ……」
超マジック星人Bは全てをシロに任せ、そして死んだ。

シロ

「結局、奴ら何もせず死んだぞ」

果たして、ペリーザを倒す事が出来るのか？

第7章 バスティーユ襲撃事件

1868年、慶応4年……戊辰戦争の始まり、鳥羽伏見の戦いの幕が開く……

シロ

「おい！サブタイトルだけじゃなく、前回のあらすじもおかしくなっている。戊辰戦争関係ないし、バスティーユ襲撃も関係ない！日本史と世界史混ぜんな」

作者は恐怖のあまり、おかしくなってしまった。

シロ

「元からだろうが……ちつ、こうなったら俺がやるしかない」

ペリーザ

「クツクツ、面白い」

ついに二人の激しいバトルが始まった。

その頃生時は、恐怖でおかしくなり、カエルのような生き物に向かって、

生時

「いい加減にしろ！このクズやろう！」
と訳の分からん事を言っていた。

カエルのような生き物

「ゲロゲーロ（何だこいつ、恐怖でおかしくなったか……はっ、まさかコイツ、激しい恐怖で目覚めた伝説の戦士、超ど変人！）」

とカエルのような生き物も、恐怖のあまりおかしなことを言い始めた。

激しい戦いは続いていた。

ペリーザ

「（さすがに強い！こ、このままでは負ける……こうなったら……）」

「

ペリーザは急に土下座をした。

ペリーザ

「私が悪かった！許してくれ！頼む！」

シロ

「勝手な事を言うな！罪もない者を次から次に殺しといて」

ペリーザ

「た、頼む」

シロ

「……クソが！お前の面は2度と見たくね」

そう言っで、ペリーザに背を向け立ち去ろうとした時！

ペリーザ

「引っかかったな」

といって爆弾を投げた。

シロは振り向き、

シロ

「馬鹿やろー!」

と叫び、背中に隠していた木刀で打ち返した。
そして、

ドカーン!

と爆音とともに、ペリーザは死んだ。

その最後はまるで、桃 白のようだった。

こうしてペリーザとの戦いが終わったのであった。

第8章 隣の親父！

ペリーザを倒したシロ……

生時

「栗八のことか……栗八のことか〜！」

と生時はまだ、恐怖で訳の分からない事をいつていた。

シロ

「おい、もう戦いは終わったぞ！」

それを聞いた生時は立ち上がった。

生時

「ふう〜、すごい戦いだった」

シロ

「お前、何もしてね〜じゃん」

生時

「……い、いや〜、これから戦うつもりだったんだよ」

シロは心の中で、コイツこそ死んでくれないかな〜と思った。

シロたちはエリーザが集めた6つのボールを持って、美奈子のもとへ戻った。

美奈子

「そう、そんなことがあったの」

シロ

「とにかく、あと一つだ」

シロたちはあと一つのボールを探すため、マジック星人から情報を得ることにした。

マジック星人C

「ほう、ソセゴンボールを探しているんですか……残りの最後の一つは、最長老……」

生時

「最長老さんが持っているんですか？」

マジック星人C

「いや、最長老の隣に住んでいる親父の娘の夫に1万借りているこのワシが持っている」

シロ

「最長老関係ないのかい！」

こうしてシロたちは全てのボールを集める事が出来た。

そしてソセゴンを呼び出した。

地球のソセゴンはセクシーギャル、だがこの星のソセゴンはなんと、セクシーサルだったのだ。

ソセゴン

「ウッキー」

シロ

「おい、なんていつているんだ？」

マジック星人C

「どんな願いも3つ叶えてあげるわー！うふーん、と言っています」

生時

「3つも！それじゃ、僕と美奈子さんとの結婚の願いも叶うぞ！」

美奈子

「叶えたら、殺すからね」

と美奈子は微笑みながら言った。

シロたちはここ数日で死んだ極悪人を除いたものを生き返らせてくれと頼んだ。

これによりベズーラ戦の時に死んだ4人とペリーザ戦で死んだズラ、エリーザ、栗八と超マジック星人の二人も蘇ったのだ。

シロたちはもう一つの願い出、自分たちが地球に帰れるように頼もうとした時、ソセゴンが消え、ボールはただの石となった。

シロ

「何でだ？」

マジック星人C

「何てことだ……このボールを作った最長老さま……の隣に住んでいる親父が死んだ」

シロ

「また、最長老関係ないのかよ」

マジック星人C

「最長老さまの隣に住んでいる親父よ。安らかに眠ってくれ」

シロたちは仕方なく宇宙タクシーで地球に戻った。

しかも4人の戦士とエリーザ、ズラと行きより人数が多いため、2台で帰らなければならなかった。

そして地球に戻った戦士たち……

だが、そこには美奈子のような女性と、左頬に傷を持つ赤毛で女性みたいな男性が彼らを待っていた。

果たして二人は何者なのか？

第9章 ヴィーナスとマルス（前書き）

DBZのセル編はT2の影響を受けているような気がします><
トランクスとジョン・コナー（エドワード・ファーロング）似ているし、地獄の未来だし、16号とシュワちゃんも似ていますし……

第9章 ヴィーナスとマルス

マジック星のソセゴンボールで戦士たちを蘇らせ、地球に戻ってきた生時たち。

だが、そこには美奈子にそっくりの女性と左頬に傷を持つ女性みたいな男性が彼らを待っていた。

美奈子

「私……？」

シロ

「何者だ！お前ら？」

謎の女性

「私の名はマルス・フランソワ。そして彼は緋村虎乃心、私の弟子です」

シロ

「マルス？美奈子じゃないのか？」

栗八

「シロさん、美奈子さんはここにいないじゃないですか」

シロ

「そ、そうだよな……にしても似ている」

マルス

「似ているのも無理はない。私は20年後の未来からやってきた美奈子です」

一同

「えー！20年後の未来から！」

シロ

「でもお前、マウス何とかと言っていたじゃないか」

マルス

「まず、私の話を聞いてください」

シロ

「話？」

マルス

「実はドクター・ゲロゲロという科学者が世界征服のため、この時代までに51体のアンドロイドを作っていました。しかし、どれもゲロゲロの思い通りのアンドロイドは作れませんでした。だが、私たちが来たこの日……つまり、たった今、彼の思い通りのアンドロイドナンバー52を完成させたのです。それが悲劇の始まりでした。たった一体のアンドロイドのために、未来は地獄となったのです」

彼女の話静静地に聞く戦士たち、彼女の話はまだ続いた。

マルス

「生時さん以外のここに集まった戦士たちで、アンドロイドと戦っていたのですが、7年前に戦死……ご存知のように、地球のソセゴンボールでは人は蘇ることができませんし、マジック星のソセゴンボールはお作りになった方が、亡くなったため、ただの石……そのため残った戦士はキューティーヴィーナスである私だけ」

生時

「ぼ、僕は、病気で戦いに参加出来なかったのかな？」

マルス

「あなたは、怖くて参加しなかっただけです」

生時

「……」

マルス

「私は、シロさんの父上、銅時さんに改造手術を行ってもらい、女であることを捨て、ヴィーナスからマルスとなったのです」

マルス……ローマ神話における戦と農耕の神で「マルス」や「マーズ」と呼ばれている。

ヴィーナスが「愛、女性」の象徴なら、マルスは「武勇、男性」の象徴である。

美奈子は女を捨てるため、自らをマルスと名乗ったのだ。

マルス

「5年前に何とかアンドロイドを倒すことが出来、ゲロゲロは逮捕されました。そんな時に孤児となった彼と出会い、彼を弟子にしたのです」

シロ

「で、お前はそれを伝えにここに来たのか？」

マルス

「違います。実は、ゲロゲロのコンピュータはそのまま起動していて、そしてコンピュータが自我に目覚め、もう一体、アンドロイド

ナンバー53を作っていたのです」

生時

「アンドロイドナンバー53……略してア・ナ・5・3か」

マルス

「彼を倒そうと戦いを挑んだのですが、逃げられました。そして、調査の結果この時代に来ていることが分かり、私たちもこの時代に来たのです」

生時

「もしかして、アナ53はアナ52を吸収して強くなったして」

マルス

「そこまでの情報は……」

シロ

「その可能性はあるな。作者はアホの生時だから」

栗

「どのみちアナ52は今日完成されたんですから、2体とも壊したほうがいいんじゃない」

生時

「で、どこにあるんですか？ゲロゲロ戦記の研究所は？」

マルス

「戦記はいりませんから……彼の研究所は北の北海道にあります」

シロ

「しょうがね、地獄の未来を変えに行こうか！」

マルスからの意外な未来を知った戦士たち……

果たして、アンドロイドナンバー53、略してアナ53を倒すことが出来るのか？

第9章 ヴィーナスとマルス（後書き）

マルスはDBだと18号のポジションです。モデルは「ベルサイユのばら」のオスカル・フランソワです。

緋村虎乃心はトランクスのような存在で、モデルは「るろうに剣心」の緋村剣心です。

最終章 今夜一杯どう？

未来が地獄だと知った戦士たち……

彼らは未来を変えるため、アナ53を倒す決意をしたのであった。

北海道にあるゲロゲロの研究所……

すでにアナ53は研究所に来て、ゲロゲロにすべてを話していた。

ゲロゲロ

「なんとすばらしい！聞いたかナンバー52、お前とナンバー53が合体すれば究極の戦士の誕生じゃ！」

アナ53

「そういうこと、今夜は祝いに一杯どう？フグくん」

ゲロゲロ

「ワシはフグくんじゃない」

アナ53

「これはどうも……口癖なんで」

アナ53はアナ52を早速吸収する事にした。

だがその時！

どこで ドアでシロたちが現れた。

虎

「しまったでござる！」

前回ではセリフがなかったため、これが虎乃心の初セリフである。

生時

「ようやくセリフが言えたね。そういえば、目玉の天さんやチャオゾウくんもまだセリフがなかったね」

目玉

「え？そういえば……なんと言おうかのう……やはり、おい、鬼郎！かのう」

チャオゾウ

「宇宙忍者ハットリチャオゾウ只今参上！」

栗

「今はそんなことやっている場合じゃないでしょ！」

生時

「いや、これは大事だぞ！虎ちゃんとチャオゾウくんは、ござるか拙者というから、キャラがかぶる」

そんなことをやっている間に、アナ53はアナ52を吸収し、究極のアンドロイドに変身を遂げた。

ゲロゲロ

「おお、すばらしい……さあ、アナ53よ！奴らを殺せ！」

その時、アナ53の指先からレーザー光線が放たれ、ゲロゲロの体を貫いた。

ゲロゲロ

「な、何を……する……」

アナ53

「これは失礼。ただ、私は誰の指示も受けない。私は私のやりたいようにやらしてもらおう」

シロ

「クソ！俺の想像していたアナ53とはえらく違っぜ」

アナ53

「究極のパワーを手に入れたお祝いに、一杯どうかね？フグ くん」

シロ

「やっぱ、アナ53だ」

栗

「そんなこと言っている場合じゃないですよ」

アナ53はマルスに向かって、レーザー光線を放った。

だがその時、虎乃心が……

虎

「師匠！」

ズキューン！

光線は虎乃心の体を貫いた。

なんと、虎乃心はマルスの盾となったのだ。

マルス

「虎乃心！」

虎

「良かったでござる……師匠が無事で……拙者、弟子でありながら、師匠を愛していたでござる」

マルス

「虎乃心……ならば、ならば死ぬ事は許さんぞ！私を愛してくれるなら、生きてくれ！」

虎

「師匠……今までありがとう……さらばでござる」

マルス

「虎乃心！」

マルスの胸に抱かれ、彼の温もりが消えていこうとしていた……
虎乃心は、愛するものの胸に抱かれ、愛するもののために散っていたのだ。

マルス

「お前一人、死なせないよ。すぐに逝くから」

マルスは虎乃心の亡骸を置き、立ち上がった。
彼女は死を決意し、アナ53と共に自爆するつもりだ。
だがその時！

シロ

「お前が死ねば、奴は犬死だ！いいか、改造手術を受けても、名を変えても、お前は女性だ。この戦いが終わったら、お前は女性らしく生きる！いいな」

そういうと、シロは背中から木刀を取り出した。

マルス

「シロ……」

シロは死を覚悟し、アナ53に立ち向かっていった。
さらにベズーラ、ピコちゃん大魔王、目玉の天津、チャオゾウ、エ
リーザ、栗八も後に続いて立ち向かっていった。
だが、アナ53には敵わず、次々に戦士たちは倒されていく……

シロ

「く、くそ……皆、生きているか？」

一同

「何とか……」

戦士たちは立ち上がり、再び攻撃しようとした。
だがその時、アナ53が薄くなっていき、そして消えたのだ。

シロ

「なんだ？」

生時

「たまには活躍させてもらいましたぜ」

シロ

「なに！？」

生時

「美奈子さんとタイムマシンで過去に行き、アナ53やアナ52が
作られる前に行き、ゲロゲロを倒してきた」

栗

「そ、そうか、そうすれば、アナ53は最初から存在しなかったことになる」

生時

「そういうこと。あつ、そうだ。作者から読者様へ、アナ53が消えた時点で、戦士たちはアナ53の存在を知らないはずだとか、そういうのは気にしないだね。ソセゴンボールはそういうことを気にして読んではいけませんから」

シロ

「お前も大変だな」

そして次の日……

マルス

「ありがとう皆、今から戻る未来がどう変わったかは分からぬが、きっといい未来になっているはず。これから私は、女として生き、愛する虎乃心の墓守をしていくつもりです」

シロ

「そうか、じゃあ元気でなあ」

マルス

「はい、それでは」

マルスは虎乃心の亡骸とともに、未来に帰っていた。

だが、歴史が変わったことにより、新たな強敵が現れようとしていることを戦士たちは知らないのであった。

END

キャスト

生時・・・生時

美奈子・・・如月美奈子
以下省略

原作 生時

脚本 生時

武術指導 修羅生死

音楽 生時

主題歌

「愛の女神〜ヴィーナス〜」

作詞 生時

作曲 生時

歌 レジェンド

企画 生時

プロデューサー 生時

協力 小説家になろう

監督 生時

最終章 今夜一杯どう？（後書き）

ご愛読ありがとうございました^^

ドラゴンボールでのポジションとそのモデル一覧

孫悟空〓生時

孫悟飯〓白ご飯（モデルは銀魂の坂田銀時）

ベジータ、ラディッツ〓ベズーラ、カツラディッツ（モデルは銀魂の桂小五郎）

トランクス〓虎乃心（モデルはるろくに剣心の緋村剣心）

ピッコロ〓ピコちゃん大魔王（モデルはドクター・スランプのニコちゃん大王）

クリリン〓栗八（モデルは銀魂の志村新八）

ヤムチャ〓ノムチャ（モデルはドラえもんの野比のび太）

天津飯〓目玉の天さん（モデルはゲゲゲの鬼太郎の目玉親父）

餃子〓ハットリチャオゾウ（モデルは忍者ハットリくんのハットリカンゾウ）

ブルマ〓如月美奈子（モデルは新キューティーハニーの如月ハニーとセーラームーンの愛野美奈子）

18号〓マルス・フランソワ（モデルはベルサイユのばらのオスカール・フランソワ）

ウーロン〓ウーノスケ（モデルはクレヨンしんちゃんの野原しんのすけ）

プーアル〓プーえもん（モデルはドラえもんのドラえもん）

亀仙人〓ハゲ仙人

神〓坂田銅時（モデルは銀魂の坂田銀時）

牛魔王〓ミスター・サタロウ（モデルはドラゴンボールのミスター・サタン）

チチ⇨生ビーデル（モデルはドラゴンボールのビーデル）
デンデ⇨エリーザ（モデルは銀魂のエルザベス）
ピラフ⇨礼クン大魔王（モデルはハイスクール！奇面組の一堂零）
シュウ⇨豪（モデルはハイスクール！奇面組の冷越豪）
マイ⇨命（モデルはハイスクール！奇面組の雲童命）
フリーザ⇨ペリーザ（モデルは実際の人物ペリー）
ドクター・ゲロ⇨ドクターゲロゲロ
17号⇨ア・ナ5・2（モデルはサザエさんの穴子さん）
セル⇨ア・ナ5・3（モデルはサザエさんの穴子さん）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2367i/>

ソセゴンボールZ

2010年10月9日14時05分発行